



大正二年十一月廿三日印刷
大正二年十一月廿五日發行

(定價三錢)

長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
編纂兼發行人 安井正夫
上水内郡岸田村字中御所八十番地
印刷者 田中彌助
長野市西后町乙廿一番地
印刷所 長野新聞社活版部
長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地
發行所 蘆澤書店

岐蘇林友
第四十九號目次

謹告
落成式彙報
學校記事
校友會便り
會員消息
雜報

謹告

拜啓去月下旬本校落成式及び之に附
帶せる林業教育品展覽會並びに記念
運動會舉行の際は多大の御同情を以
て多額の金品御寄贈御出品に預り御
蔭を以て萬事好都合に非常の盛況を
以て無事終了致候段千萬忝なく奉深
謝候本誌末に御寄贈の金品及び芳名
を列記し受領證に代へ申候間左様御
承知被下度先は乍略儀以誌上御禮ま
で如斯に御座候敬具

大正二年十一月

木會山林學校々友會長安藤時雄

各位

落成式彙報

本校新築落成は豫定の如く十月廿日をして
舉行せられ非常の盛大を極めて無事終了
せり今左に之が梗概を記して參會を得ざり
し會員諸君に報導し併せて他日の思出とせ
む
○準備、十月下旬新築落成式舉行の事は夙
くより職員會議にて決定せられ同時に林業
教育展覽會開催の事も確定せるを以て各委
員を擧げ夫々部署を定めて七八月の交より
早くも之が準備に着手せるが日月匆忙とし
て過ぎ事務次第に多忙を極め來り十月に入
りては更に生徒の委員を命ト一層多忙の時
季に入りぬ加之落成式の翌日は記念運動會
を舉行すべき筈なり故に此方面に向ても多
大の精力を注がざるべからず斯くて職員生
徒を擧げて各部の整理整頓裝飾に従事し大

車輪の活動をなせるは實に目ざましき光景
なりき而して一方建築工事を顧れば監督は
工夫を督して晝夜兼工數十日に及び落成式
前日に至りては纔かに完成を告げたる有様
なりき

○裝飾、學校正門を距る數十歩縣道との分
岐點附近には全校生徒が終日實習にて取り
來れる裏山演習林の樅葉を以て一大綠門を
建造し正面に祝落成の大額を掲げ左右の門
柱には山高水長、意壯氣豪の二聯を楹の實
にて書きたる牌を掛け校庭は勿論遠く演習
林にも綱を張りて萬國旗を翻し校舍前面の
窓上には五色を以て染めなせる紙の花輪を
垂れ校内各室は借物部の幹旋に係る紅白の
幔幕を張り卓上には生花を生け全廊下展覽
會場及び食堂の天井一面に萬國旗を以て飾
り立てたれば宛ら校内は百花繚亂春の如き
光景を描き出せり

○展覽會、展覽會場には林業第一第二標本室及び博物標本室を宛てたるが第一室は七宮先生第二室は北村嶋内兩先生第三室即ち博物室は北村大場二先生主任となり物品の陳列配置をなせるが幾度も配置を改め模様を變へ苦心慘愴の結果漸く成りしものなり今各室に就て其陳列品の大体を示せば左の如し

第一室、吉野に於ける一月より十二月に至る各月伐採杉木幹及説明、吉野に於ける筏木馬、地車模型、和船模型、各種伐木器具、額縁鏡縁標本、漆採取器標本、三菱造船所用外國樹種材鑑、美築細工、木會榲笠、野澤蔓細工、滋賀縣水口細工及説明、諏訪産鐵平石及寫真、朝鮮竹皮細工、木會福島漆器各種、木會運材裝置模型、輸出向竹材標本、乾筒及説明、熊本縣阿曾箱根竹、玩具竹細工、アイヌ木細工、下高井平穩村産各種及木碗製造順序飯匙、上伊那薄板各種、静岡縣三徑利用(ペン)軸、奈良井各時代櫛標本、木材乾溜裝置及製品等

第二室、木會五木の樹幹解剖圖及圓板、秋田大林區署施業案、吉野林業に關する寫眞、大分縣農林學校出品杉樹幹解剖圖及圓板、同上學校各種實習寫眞、御嶽模型、木會古圖三點、最近大日本森林帶圖、測樹測量器械、炭籠熱量計、天然物保護寫眞、自強紀念林寫眞及事業誌、天然物保護主旨警板(以上三點)、滋賀縣栗太郡里内文庫出品等

嶽、駒ヶ岳に於ける高山植物標本、造林教授用圖表、砂防工寫眞(長野、滋賀、愛知山梨四縣)木會興業會社出品製紙原料、製品、工場寫眞等(此外室外には檜杉の苗木標本を植るたり)高麗雄、鳥類卵標本、蜂鳥、繭標本、生徒製作昆蟲標本數百種、木の葉蝶、鳥類標本各種、動物掛圖各種、動物アルコール漬及乾製標本、岩石標本等

○落成式狀況、城山の巔吹き下す朝嵐駒ヶ岳の峰に棚曳く七彩の雲何れか今日(十月廿日)の嘉辰を卜せる吾校新築落成祝典の瑞氣にあらざる崇巖至美の赫陽雲の帳りを押し開けば秋空一碧爽快拭ふが如く一片の塵雲だになし、地として木ならざるはなく木として紅葉ならざるはなし、紅葉にうつろふ校舎内外の旗幟は青く白くはた赤く飄々として飄れりかの美しき天との麗しき地とを擁せる吾校の祝福や既に乾坤に満てるを知る、やがて校門わたり三々五々の來賓あり青き徽章を帯べる接待員の右往左往を認む殊に嬉しき來賓は卒業生なり慕はしき母校は今や星うつり人替り地をかへ結構をあらためて新装せりと雖も一貫せる蘇門の内實は今に變らざるべしとて金卸姿の吾等を懐かしげに見下すその眼光を迎ふる吾等の眼光の發矢と往遇ふの囁時彼は過古を追ひ我は未來に憧る、こゝに無韻の默示と光明あるにあらざるか。

田理事官、森本警察部長以下の一行を迎接す、十時の振鈴とともに職員生徒來賓と順次に式場に着席し校長は始式の旨を宣す、會衆一同朗々たる風琴の音につれ嘔ひ出づるはこれ國歌君が代なり二回合唱の後校長の勅語捧讀あり、終て校長は口頭を以て式辭を述べ要は先づ本校の歴史より説き起して新築落成に至る經過に及びさてかゝる完全なる校舎を得たるに付ては吾人は當局及縣民の囑望に酬ゆる爲大なる覺悟を要するを説き職員生徒一致戮力以て校風の發揚に努力すべきを誓はれ併せて本日斯の式に參列せられたる來賓に對して感謝の意を表して壇を下れば知事代理池田理事官登壇し告辭を朗讀せらるゝ事次の如し。

木會山林學校々々新築工竣リ本日ヲ以テ落成式ヲ舉行ス洵ニ祝スベキナリ
惟フニ本校ハ四境盡ク演習林タルノ觀アル森林ノ裡ニ在リ教授上ノ便益ヲ享クルハ勿論學生實習上ニ裨益スル所尠ラカズ今ヤ校舎新ニ成リ設備漸ク整フ自今一層内容ノ改善ヲ圖リ益々本校ノ特色ヲ發揮セムコトニ努ムヘシ一言以テ告辭トナス
大正二年十月二十日
長野縣知事正五位勳四等
依田 銈 次 郎

られ各種の學校陸續設立せらる就中本校の如きは出色のものなりとの形勝の地に學ぶ諸子よ學業の勉勵とともに心身の鍊磨技術の鍊達を怠る勿れ特に刻下の青年に注意すべきは一に堅實なる元氣の養成にあり實に青年勇氣の如何は惹いて國家の消長隆替に關するなり二に諸子は本邦林業の現況につき荒廢地を挽回し以て斯業を興起せしむべきなり今の世は各方面に皆人才を要すれども林業において殊に然りとす諸子よ幸に邦家の爲自重自愛せられよ」と次で田中支廳長は「本校卒業生が直接實務にたづさはるは慶賀に堪へず諸子よ吾國は目前に支那の如き老大國を控へて木材供給の好位置にあり茲を以て斯業のため踴躍してその途に上られよ又本校の性質たるや將來に於て必ずや國立に附せらるべきものなり而して此の問題の解決は徒らに議論運動によるべくもあらず他なし本校卒業生の活動振即ち國家社會に貢獻する處如何にあり」と策勵せらる、次で平川西筑摩郡長、木會支廳員總代松田力熊氏、新聞記者總代佐藤櫻哉氏、信濃山林會員總代鈴木兵衛氏、西筑摩郡會議員總代八木定義氏、同町村長總代下村茂助氏、福島小學校長三村傳氏、卒業生杉本貢氏、同高橋博氏、蜂須賀忠四郎氏の祝詞祝辭祝歌等あり、七宮教諭諸方よりの祝電を朗讀披露す、

對して謝辭を陳べ閉式を宣す、此の間後山に烟火の爆發たわす一段の興を添へぬ、かくて展覽會場を開きて來賓の縦覽に供し正午より食堂を開きて酒肴及び紀念品を呈し安藤校長の挨拶に次ぎて岡本山林局長の一同を代表せる謝辭あり直に酒宴に移り主客十二分の歡をつくして午後一時頃退出せり(午後一時より更に信濃山林會總會を講堂にて開く其次第は別項に記載す)あはれ芽出たかりし日よ吾校千載の一紀元日よこの榮譽歡嬉は永しへに會せし人の腦裏を去るなく木會の天地に朽ちざるべしあはれ輪奐の壯なる校舎よ永しへに健在なれ有爲の青年をはぐくみ鞭撻し激勵するを忘るゝ勿れ、願れば數萬の資を投じ五歳の星霜を閱せし跡や何をか語る高く閃めく萬國旗は灰黒の薨に添ひ薨は屋裏に接し屋裏は萬代の礎により礎は堅く深く永く据ゑられたり、吁風雨千歳の幾春かけて木會山林學校の名天下に高く轟き遠く輝かんとすらん。

○當日祝辭左の如し
祝 辭
茲に本日を下し縣立木會山林學校落成の式を擧げらる小宜 此盛典に列するの榮を得たるは洵に欣喜に堪へざる所なり
惟ふに森林の經營は濟世の要務にして致富の資源なり由來吾西筑摩郡は森林地の名を擅にすも雖も未開發の森林多く其荒廢に屬するもの亦少しとせず之れが救済を要求するに當り森林思想尙未だ幼稚の域にあるは一般の均しく遺憾とする所なり茲に於てか斯業の啓發指導は一に教育の力に俟たざるべからざるを認め明治三十三年郡立山林學校を起し人材養成に努むるや爾來駁々として盛大を來し入學者は全國各府縣に及び遂に明治三十九年縣立となるに至る是れ本邦唯一の本校ある濫觴なりとす
今や新築既に成り宏壯輪奐の美を極む希くば生徒諸子勉勵耐風夜櫛らす成業の美果を結び以て本校の名聲を發揚し我國林業の前途に貢獻せられんことを
一言以て祝辭となし併せて本校前途の發達を祈る
大正二年十月二十日
西筑摩郡長正七位勳六等
平 川 房 吉

祝 辭
于時大正二年十月二十日縣立木會山林學校新築工成り紅楓翠松相映するの間に於て茲に落成式を舉行せらる不肖 本校と深き縁故を有し而して此盛典に加るを得たるは最も光榮とする所なり
願みれば本校創立以來師弟共に校舎の不完

全なるを愛ふること久しく今や即ち此壯麗なる建築を見るに至れり豈壯快ならずや殊に位置は俗界を距て御料林と接近し最も學習の便を占め加るに學徳兼備の良師を有す本校將來の發展や期して待つべき也一言以て祝辭とす

大正二年十月二十日
從五位勳六等 松田方熊

祝辭
木曾山林學校新築工成り本日を下して茲に開校の式典を舉行せらるる
校舎の構造堅牢にして華美に流れず各室の配置は勿論採光通風二つながら宜しきを得加ふるに近き山麓には廣き苗圃を備へ對岸高き山地には實習林を設く眞に林業教育を施すに適切なりと云ふべし
將來此校益發展して林業上に貢獻すること多大なるべし
本日開校式に臨み一言以て祝意を表す
大正二年十月二十日
西筑摩郡十六ヶ町村長總代
新開村長 下村茂助

惟ふに森林は天與の富源にして其の開發は蓋し學理の應用を俟たざるべからず本郡は即ち此富源たる森林に富むと雖も未だ開發利用せられざるの林野頗る多し故を以て明治三十三年郡費を投じ始めて山林學校を起し啓發指導者の養成に努む爾來校運漸く進み遂に縣立となり今や新築工事を見るに至る將來斯業の發展に資する所尠かざるべきは信じて疑はざる所なり豈慶賀せざるべけんや茲に謹んで盛典を祝し併せて校運の隆昌を祈る
大正二年十月二十日
西筑摩郡會議員總代
郡會議長 正八位 八木定義

祝辭
維時大正二年十月二十日貴校々舎新築落成の盛典を舉行せらるるに方茲に一言の祝辭を呈するを得るは光榮何ぞ之に過ぎん夫れ木材の直接に吾人日常の生活上に及ぼす効益の著大なるを森林の間接に國土の保安に與ふる効果の多大なるは今更に贅言を要せず林學の研究決して忽緒に附すべからざるなり
願れば本郡明治三十三年一郡組合高等小學校の解散せらるるや之に代ふべき教育機關を講究して遂に美且大なる森林中に於ける山林學校の創設を見り爾來程度を甲種に

進め尋て縣の經營に移り今や此盛況を呈するに至る郡の豫果果して空しからざりし耳ならず國家の爲寔に慶賀措く能ざる所也然れども學を修め業を習ひ進て之を社會の實際に施すにあたり其成績や實に其人によりて背懷の差も當ならざるの感なくんば非ず是れ大に人物の養成に努めざるべからざる所以なり今や此の校舎を築き當局まことに其人を得たり將來益人材輩出して斯界に貢獻するところ大なるべきを信じて疑はざる豈敢て希望を述ぶるの必要あらんや謹て蕪辭を呈して祝意を表すと云爾
福嶋尋常高等小學校長
三村傳

維時大正二年中秋二十日萬壑秋色蕭條として天遠く駿馬七花の間に肥ゆるの好期茲に木曾山林學校新築落成開校祝賀の盛典を擧げらるる不啻雲外此式典に列するの榮を擔ふ如何か奉祝の辭なるを得む
今や世界列強の大勢は日に月に隆々として進歩し般々武裝の平和に努力し以て金權に依つて平和の戰鬪に凱歌を奏せん事に汲々として止まず此時に當つてや東亞の一小島帝國が此大舞臺に立つて之れ等列強と相伍し嶄然として頭角を顯はさんとするか固より内國運の發展に須たざるべからず而して國家の隆不隆のかゝる所たる洵に育英の道の興不興に淵源す國家活動の源泉は將に其の青年若輩の生ける血潮にあり之れをして無缺完全に生々活動せしめんとする育英の力茲に於てか大を爲す殊に富國の方面に於ては實業教育其の最に居る而して國家は武に偏すべからず財に偏すべからず劍磨かれ金足わで以て始めて立つべし然るに何ぞ我邦刻下の状態はよし武力に於ては優に一等地を振くあらむ其財政に致つては以て

大正二年十月二十日
長野縣林業技手 西澤靜人

見るべきなし内外債三十億に達し加之近き明春を出すして一億の外債を募らんとせるに於ては吾人轉た皇國の爲に寒心に堪へざる所なり方今國家漸く茲に見るあり實業界に奮闘活動の青年を欲するや奮に倍して切なり邦人覺醒の新機運が回天の宏謨より明治四十年間は實に我邦の礎を鞏固ならしめし時新なる此の大正の聖代は方に邦國が世界の活躍を試むるの機會たり此機に際し此校の茲に愈々發展し益々其の効果を擧げ以て國家に貢獻せる處大ならんとせる洵に所以あるなり盛なる哉
若し夫れ其學舎の位置を見んか山を負ひ川を帯ひ山川映帶鬱乎として四時の秀美を獨占し而も教場の配置宜しきを得て室内皎潔眼を放ては常盤木の翠綠風に嘯き樹間に駒嶺の秀巒を望むとて以て人格修養の軌範とすべく教育衛生の雙美を盡せりあゝ今まは此學窓に呻唔の聲繁からんとす内に師の醇々として教ゆるあり弟の孜孜として學ぶあり克く上下心を一にして忠實業に服し華を去り實に就き荒怠相誡め自強息むなく惜陰奮勵雪書蠶讀の苦學を忍び精研盡瘁切益々富強に赴かしめ以て邦國の興隆に盡すあらんか今日の盛典をして永遠に紀念すると共に其存立の主旨に反するなく以て彌が上にも榮わむ事必せり希くは日を倍し隆昌に向はんことに努力せられ以て皇國の爲め

大正二年十月二十日
信濃民報社木曾支局主任
富士川雲外

○山林會總會、落成式を終へて午後一時より本校講堂に於て信濃第十三回山林會總會を開けり評議員鈴木兵衛氏の開會の辭に次ぎて中山々林會書記の會務及會計報告あり田中支廳長、西筑摩郡長、安藤校長交々祝辭を述べ次に左の諸氏の演説ありて五時終了せるが參會者は會員百五十名並に本校職員生徒全部にて盛況を呈しぬ
所感 信越新聞主筆 佐藤櫻哉氏
治山治水 本縣技師 弘世弘藏氏
木曾御料林 木曾支廳長 田中勇太郎氏
山林經營の急務 山林局長 岡本英太郎氏
部落有林野の整理と、刈敷林設置の必要 實業家 中村久之作氏
○提灯行列 落成式の當夜は本校並に福嶋小學校生徒及新開福嶋の町村民が合併せるいとも盛大なる提灯行列を行ひ同夜六時より我二百の健兒は何れも眞紅のホウツキ提灯を高く青竹の幹頭に釣り欣々として校庭に集ひ小學校生徒町村民等の行列の來るを今や遅しと待ち受けぬ聽て變々たる太鼓の音劉曉たる笛の聲囂々たる人の叫びは天地をゆすり幾百千とも數知れぬ提灯の光は闇をてらし軍容堂々として我が校庭に押

貢獻大なるものあらんことを聊か蕪辭を聯ねて祝意となす
大正二年十月二十日
信濃民報社木曾支局主任
富士川雲外

寄せぬかくて本校生徒を合はせて亡慮数千の群衆は一同に本校の萬歳を三唱し終て福嶋町に向つて繰り出し向城、山平、上の段矢澤より中島を経て中畑に出て行人橋を渡り廣小路なる町役場前に到り茲に再び本校の萬歳を三唱して解散したり時に午後八時半なりき

紅裙隊の木曾踊あり主客十二分の歡を盡して八時頃終了せり
○校内縦断許可、廿二日午前八時より一般觀覽者の爲學校室を開放し生徒をして案内説明の任に膺らしめたるか早朝より新聞福嶋は勿論近在の老幼ハシハシと押しかけ物珍らしげに見物せる様可笑しく殊に展覽室は大入を究めたり日没迄に來校せる參觀者凡五百餘名を算したり

○落成式當日祝詞を寄せられたる諸氏左の如し茲に謹んで謝意を表す
藤崎下水内郡長、針塚蠶糸専門學校長、黒川小縣郡長、江畑前校長、廣瀬内務部長、野田土木課長、更級農學校、縣會議員福澤泰江氏、丸山彌一郎氏、鹽尻農學校長神戶昌平氏、高木本校長、安藤北佐久郡長、縣會議長大井富太氏、奈良農林學校、愛知農林學校、長谷部兵治氏、神作四郎氏、倉科浦一郎氏、吉田佐十郎氏、齋藤正雄氏、嶽野利雄氏、久保田傳一郎氏、小林松本中學校長(以上電報の分)

藤信越新聞社主筆、鈴木山林會評議員、土橋山林會評議員、福嶋町在住各官衙長、其他長野松本福嶋町在住各新聞記者、中村山梨縣技師、山崎愛知農學校長代理志村教諭等總數凡三百名
○當日來會せる卒業生左の如し
高樋博君、林恒君、杉本實君、兒野榮君、渡邊知則君、久保田吾良君、狩戸深一君、宮下信一君、篠原昇士君、小松精内君、市川潔君、大島角藏君、小林恭市君、松嶋九平君、松嶋周一君、新井喜多雄君、野知慶助君、寺嶋俊一君、松本清太君、細江七兵衛君、吉村金治君、水野忠一君、木村音次郎君、芦澤庸三君、宮田實君、原貴一君、

等凡竹にて作らるべきあらゆる種類の物を何れも實物の數千百倍に模造したるものにして珍々無類天下一品の呼物なりき、次に二年級の假裝行列又頗る異彩を放てり樂隊を先頭にして政客あり虚無僧あり軍人あり日雇代人あり大學生あり獵師あり乞喰あり紙屑拾ひあり糞桶擔へる農夫あり凡て社會白般の風俗は殆ど網羅せられ千態万様にして而かも其の變裝の巧妙なるに至りては俳優をして三舍を避しむるの概ありき、其外劍舞あり相撲あり通學一同の打上げし煙火あり競技に餘興に歡をつくし興を極めかくては何時果つべしと思へざりしが知らぬ間に太陽は西山に没しあたりは漸く夕靄にとざされて電燈の光のみ獨り赤く輝きて水よりも清き秋の夕空に早や二つ三つ星の點々するころとはなりぬ、應て安藤會長は職員生徒一同を集め本日の万事無滞終了せしは一同協力一致の然らしめし所なりと感謝の意を表し學校並に校友會の萬歳を三唱してめでたく解散せり時に午後六時なりき左に重なる優勝者の氏名を掲げん

- 障害物 一着 矢島 武六君(一年)
- 二着 種倉 隨造君(二年)
- 三着 柳澤 義雄君(三年)
- 蟠根錯節 一着 松澤 敏男君(二年)
- 二着 種倉 隨造君(二年)
- 三着 千田 政美君(一年)
- 原 潔君(三年)
- 旅裝點燈 一着 原 潔君(三年)
- 二着 不免 修六君(三年)
- 三着 東原 智君(二年)
- 八百ヤード一着 塚田 大君(三年)
- 二着 藤枝 茂君(二年)
- 三着 平田 實君(一年)
- 五百ヤード一着 丸山 鋼造君(二年)
- 二着 中垣 英一君(三年)
- 三着 久保 照人君(三年)
- 三百ヤード(職員) 一着 安藤 校長
- 二着 嶋内 先生
- 三着 大場 先生
- 四着 新家 先生
- 登山競走 一着 田近善右衛門君(二年)
- 二着 丸山 鋼造君(二年)
- 三着 久保 照人君(三年)
- 四着 稻葉 増吉君(三年)
- 五着 原 貫三君(二年)
- 角力三人拔 一着 關 琴義君(三年)
- 二着 中垣 英一君(三年)
- 三着 吉澤 傳君(一年)
- 四着 深美 利一君(二年)
- 五着 竹原 久治君(二年)
- 各級選手競走(千ヤード) 一着 關 琴義君(三年)
- 二着 中垣 英一君(三年)
- 三着 吉澤 傳君(一年)
- 四着 深美 利一君(二年)
- 五着 竹原 久治君(二年)
- 小學校選手競走(五百ヤード) 一着 平田春雄君(福嶋小學校)
- 二着 福村金次郎君(駒ヶ根小學校)

